

復活節第2主日・礼拝説教要旨（4月27日）

『生ける希望』 ペトロの手紙一 1:3-9 早川 真牧師

今朝与えられたペトロの手紙一は、ペトロがローマにおいて迫害の中で書かれたものと考えられています。ローマ皇帝のネロという人物は、当時ローマに起こった大きな火事をクリスチャンたちのせいにして苛烈な迫害を行いました。しかしそのような厳しい状況の中書かれたであろうこの手紙には、驚くほどの喜びが満ちています。イエス・キリストは死んで墓に葬られ、三日間墓の中に閉じ込められました。しかし神はイエス・キリストを死者の中から蘇らせ、イエスは復活の主として弟子たちの前に現れました。それは人間の思いをはるかに超えた希望でした。

イエスの十字架に直面して、ペトロの抱いた計画は挫折し、すべての希望は失われたように思われました。しかし、どんな時も神の希望は生きています。私たちの挫折や失敗にもかかわらず、神のご計画は実現していきます。

イエスは復活され、弟子たちの前に再び現れました。そして天に上げられ、その50日後にペンテコステの出来事が起こり、弟子たちに聖霊が降りました。そしてその時、かつては迫害を恐れ、イエスを三度知らないと言ったペトロは、死をも恐れず、大胆に神の福音を宣べ伝える者となっていったのでした。

今私たちも、試練の中にあるかもしれません。しかし、私たちの希望や計画が失われた夜にこそ、神のご計画は実現し、復活の朝が訪れます。その度に、私たちは生ける希望へと導かれていきます。私たちの夜に復活の朝を与えてくださる、私たちの主イエス・キリストの父である神を、私たちもまたほめたたえつつ、代々の生徒と共に地上の旅路を歩んでまいりたいと思います。